

JR南武線連続立体交差化の早期実現を

「地域発展・防災の観点からも重要」

自民党 川崎市議会議員 かぶらき茂哉

川崎市は、JR南武線尻手駅から武蔵小杉間の連続立体交差化に向け、6月か

ら現地調査を進めています。南武線の立体交差化については、平成19年に幸区町内会連合会で早期着工を求め、市議会に提出するなど長年の悲願で踏切やその周辺道路の渋



S22 川崎市幸区小向に生まれる
H7 川崎市議会議員選挙に初当選、
現在5期目
H19.5月 川崎市議会議長
10月 全国市議会議長会国会対策委員長

す。

今回の調査では、2年かけて地質調査のほか、設計図などの作成のための航空測量、路線測量などを実施し、線路配線や構造、事業費などの検討も進めていくとしています。その後、詳細調査や都市計画の策定に3年、用地の取得など工事期間に15年から20年を想定しており、同区間の工事完成は早くても2029年に降になる見込みです。

ただ、矢向駅から尻手駅の約1キロは横浜市の市域で、さらに一番東の端にあたるため、重要視されていない感がありますが、横浜

市議会にも働きかけて早期実現をめざして行きたいと考えています。

再度になりますが、南武線の連続立体交差化は、幸区の悲願であります。区民の往来が増えることで、地域コミュニティのさらなる活性化、経済波及効果が期待できるだけでなく、何より区全体での防災訓練やイベントを開催することで、顔の見える関係が進み、安心・安全の街の実現にもつながります。ぜひとも、川崎区の京急の立体交差化を一時中断してでも、南武線立体交差化を優先して早期の着工を目指して、ベクトルを傾けていただけるよう市にも訴えていきます。

これからも地域の方々が未来にわたって安心して生活できる環境を作るため、市に求めています。

ことすら危惧されています。また街づくりの観点でも幸区は、南武線で日吉地区が分断されてしまい、一体的な街づくりの阻害にもなっています。

滞、歩行者の安全性の低下といった交通に対する課題が挙げられてきました。地域防災の面でも慢性的な渋滞の発生は、救急や消防の活動にも影響が出てしまうほか、地震などの災害時発生時には、踏切そのものが市民生活を脅かしてしまう

開かずの踏切”によって、